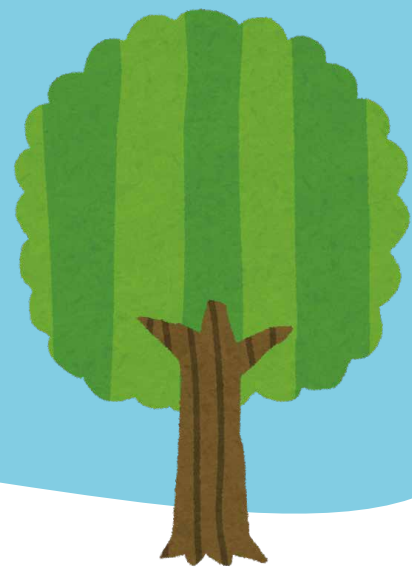


# NEWS LETTER

2015 年度第 1 号



## 新年度のごあいさつ

NPO 法人子どもグリーフサポート  
ステーション  
代表 西田正弘



中国の諺に「井戸の水を飲む時は井戸を掘った人のことを思え」とある。また「井戸深ければ水はどこへでも流れていく」と。

子どもグリーフサポートステーション (CGSS) が産声を上げたのはまだ 2 年前のことだ。その前身は仙台グリーフケア研究会が実施した「大切な人を亡くした子どもたちのためのワンデイプログラム (2010 年 12 月)」だった。中心スタッフの研修、ボランティア育成にはほぼ 1 年間の準備を要してのスタートだった。中心スタッフは自分の仕事をしながらの取り組みで多くの汗が流された。

わが国のこどものグリーフサポートは交通戦争と言われた 1960 年代後半に交通遺児育英会の奨学金による高校生への就学支援からスタートした。夏休みに宿泊の「つどい」を実施し交流の場をつくった。転機は 1995 年の阪神・淡路大震災である。あしなが育英会が募金を募り震災遺児のためのレインボーハウスを建設した。モデルとしたのは 1982 年に活動を開始した米国のダギーセンターである。2006 年あしなが育英会は自死遺児病気遺児らのためのレインボーハウスを東京に

建設した。98 年に自殺者が 3 万人を超え年間 1 万人とも言われる自殺で親を亡くした子どもへのサポートが急務になったこと、3 人にひとりのがんで亡くなる時代になったことなどを受けてのことだった。東北は全国的にみても自殺率が高い。あしなが育英会は仙台グリーフケア研究会とともに 2009 年 2010 年と宮城県泉ヶ岳、花山で「遺児の小中学生のつどい」を開催した。

そして 2011 年 3 月 11 日東日本大震災。当然のように仙台グリーフケア研究会はあしなが育英会と協働し震災遺児のサポートにあたった。お互いが新しい井戸掘りをはじめた。

2015 年 4 月、CGSS は活動の拠点を仙台レインボーハウスに移した。震災遺児を支援の対象とするあしなが育英会とすべての遺児や兄弟姉妹、祖父母や友だちを亡くしたこどもを支援の対象とする CGSS が協働しよりたくさんのおこもをサポートしていく。

またこの 2 年間で CGSS は全国的にこどものグリーフサポートをする団体とつながりファシリテーター養成やプログラムのノウハウを伝えることでそれぞれの活動を支えて来た。その結果、全国で活動する団体は 11 団体まで増えた。井戸の水が流れていっている。6 月にはその仲間たちとダギーセンターへの研修ツアーを組む。それぞれの実践をもとに学び合う。次なる井戸掘りのために準備する。どこへでも水が流れて行くように。

## NEWS

### ご寄付をいただきました

一昨年、昨年に引き続き、三菱電機株式会社様と三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金様よりご寄附をいただきました。

『三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金』は、三菱電機株式会社の社員の皆様からのご寄付と同額を会社が上乗せ (マッチング) し、社会福祉施設や団体に拠出するマッチングギフト制度です。子どもグリーフサポートステーションへの寄付は 3 度目で、総額は 2,400 万円になります。4 月 4 日、仙台レインボーハウスにて、三菱電機東北支社の渡辺純総務部長より、代表西田に贈呈書が手渡され、「心のケアが必要な子どもを支援し続けてほしい」とのメッセージをいただきました。

また、一般社団法人倫理研究所が開設している東日本大震災教育支援基金「りんりん基金」様から 2 回目のご寄付をいただきました。子どものための活動費として、約 500 万円をいただきました。

ご寄附下さった皆様の思いを胸に、死別を経験した子どもたちのグリーフを支える様々な活動のために、大切に使用させていただきたいと思っております。ありがとうございます。



西田代表 (左) と渡辺純総務部長 (右)



### 受賞しました

3 月 15 日、仙台市民会館にて行われました、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会主催「第 1 回ジャパンレジリエンスアワード (強靱化大賞) 2015」におきまして、「特別賞 佐々木則夫 (日本女子サッカー代表監督) 賞」を受賞いたしました。

この賞は、プログラムに参加する子ども達・保護者の皆さま、ご協力いただくファシリテーターの皆さま、ご支援をいただくとともに、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。この受賞に驕ることなく、これからも大切な人を亡くした子どものグリーフサポート活動に取り組んで参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



## 各地のグリーフプログラムの様子

### 仙台

仙台市では、仙台レインボーハウスを会場に、月に2回日帰りのグリーフプログラムを開催しています。あしなが育英会東北事務所との共同開催です。この他、月に1回のペースで、高校生を対象としたおしゃべりの場を設けています。

プログラムに参加する子どものなかには、学校で自分の居場所を見つけられずいたり、人間関係に苦勞を感じている子どもも少なくありません。そんな子ども達が、プログラム中は活き活きとした笑顔で遊んだり、自分の考えや気持ちを語る様子を見ることが出来ます。

子どもたちは、遊びを通して自身の考えや思いを表現します。私たちファシリテーターは、遊びのなかで子どもの主導権を奪わず、自由な表現を手助けします。体を動かしてエネルギーを発散する子、小さな部屋で静かな遊びをする子など、何かを作る子など遊び方や過ごし方は様々ですが、子どもたちそれぞれが、遊びたいように遊び、話したいように話すなかで、様々な表現が出来るように思います。

成長に伴い、言葉を獲得することで表現できるようになった気持ちや考えが増えて来ます。また、幼稚園や小学校での行事、母の日や父の日、日常の中で流れる音楽、テレビなどの映像でふと目にする風景、家族連れの姿、クリスマスなど、

### 福島

福島県では、福島市にて月に1回グリーフプログラムを開催しています。2014年6月より開始し、2014年度は10回のプログラムを開催することができました。

福島のプログラムは、地域の会場をお借りして、都度仙台からおもちゃや物品を運び込み、会場を作っています。なんと、火山の部屋はテントを使っています。そんな即席の部屋でも、子どもたちは「ここは暴れる場所」ということを認識してくれているようで、うまく利用してくれています。おもちゃは多く運ぶことはできないので、参加する子どもに合わせて厳選したおもちゃを持って行っています。仙台のような十分な環境ではありませんが、子どもたちは工夫しながら遊んでいます。

参加する子どもや保護者はまだ少人数ですが、プログラムはいつもアットホームでゆったりとした雰囲気があります。参加する子どもも保護者もファシリテーターも、人数が少ないためか、みんなでプログラムを作り上げているような連帯感を

### 岩手

岩手県では、陸前高田市にて月に2回、釜石市、宮古市、盛岡市では岩手県沿岸広域振興局保健福祉環境部等と共同で、定期的にグリーフプログラムを開催してきました。以下、地域ごとにご報告いたします。

#### 陸前高田

陸前高田では、2013年からプログラムを月に2回、定期的に開催しています。学校の先生や専門職の方などの地域の方とつながりながら、地域の子どものサポートを行っています。プログラムに参加する子どもたちは、子どもたち同士の交流も多くなり、プログラムの場が「仲間」や「大家族」のようになっていると感じます。

保護者からは「みんなのびのびと遊んだりしているようで、とても楽しみにしている」「参加する前からとても楽しみにしていて、みんなで遊べる機会がなかなかないので良い時間を過ごしていると思う」となどという感想をいただいています。

陸前高田市は津波により大きな被害を受けました。現在は復旧が進んでいるものの、格差や孤立の問題があり、地域には大きな課題が山積んでいます。一方、生活が落ち着いてきたことで、喪失感を実感し始める人もいます。これからは、深く長いグリーフが大きく表れる時期なのだと思います。

グリーフプログラムでは、子どもたちが自身の気持ちを丁寧に扱い、亡くなった大切な人や震災前の思い出と「つながり直す場」として機能していくことが重要だと感じています。

2015年度より、グリーフプログラムの会場が「朝日のあたる家」から「陸前高田レインボーハウス」へと移ります。子どもたちから「場所はどこになってもいいから（プログラムを）続けてね」という声がありました。会場が変わっても、変わらずにプログラムを開催していきます。

#### 釜石

釜石では、2014年度は7回のプログラムを開催しました。プログラム中、子どもたちからは「遊びたい」「話したい」という気持ちが強く感じられ、プログラムの時間いっぱい、体を大きく動かして遊んだり、めまぐるしく遊びを変えたりして過ごしています。釜石では、中高生のプログラムも開催しています。2014年度は6回開催しました。中高生という思春期の時期には様々な課題が出て来たり、将来の不安が生じたりします。これからは、より丁寧に、安心できる居場所を地域で創り続けいく必要を感じます。

仙台、福島、岩手（陸前高田、釜石、宮古、盛岡）の各地で開催しているグリーフプログラムの、2014年度の様子をお伝えします。

生活して行く中でグリーフが喚起されるイベントや雰囲気などに触れたり感じたりする機会も増えて来ます。近年では「2分の1成人式」と称し、10歳となる第4学年で人生を振り返ったり、親への感謝を伝える行事が行われています。そして、3月11日や命日などのメモリアルな日…。避けられることではありませんし、避けるべきことでもありません。ある保護者の方からは「毎年命日が近づいて来るにつれ、頭痛や腹痛を訴えたり、気持ちが荒れたりしていましたが、プログラムに通うようになってからはあまり言わなくなりました。」という声を教えてもらいました。ある家庭では、亡くなったお父さんの話を家族でできるようになったともお聞きします。またある家庭では、気分や体調に変化が表れた際には、子どもの方から「プログラムで話をしてみようかな。」と言っていたそうです。

プログラムでの経験や出会いを通し、子どもたちが自分の気持ちを否定することなく、丁寧に扱えるようになってきていることを実感することが出来ました。

2015年度も、大切な人と死別を経験した子ども達それぞれが、日々の生活の中で自分の気持ちの変化を自覚し、それに対処する自分なりの折り合いの付け方を身に付けたり、プログラムの中で表現したりできるよう手助けをしていきたいと考えています。

感じます。プログラムに参加してくれている親子からは、「いつも楽しみにしている」「福島では他にはこのような場所がないから、ここに来て嬉しい」「プログラムに参加するようになってから、親子で亡くなった人のことを話そうことができるようになった」などの感想をいただいています。これからも、皆さんと大切にこの場を作り続けていきたいと思っています。また、福島ではまだプログラムの存在が十分に認識されておらず、今後は広報が大きな課題となります。必要とする人に情報が届くように、努力していきたいと思えます。

福島グリーフプログラムの会場→



#### 盛岡

震災により沿岸部から内陸部へ転居した方のために、盛岡市で2014年度は2回のプログラムを開催しました。岩手県であっても沿岸部と内陸部の震災に対する温度差は大きく、内陸部へ転居した方は苦勞を強いられていると聞きます。子どもたちは「火山の部屋」で力いっぱい暴れたり、過去の出来事を言葉にしたり、気持ちや思い出をさまざまに表現していました。なかなか普段口にはできないことや気持ちを、安心して表現していたようでした。



#### 宮古

宮古では、2014年度は4回のプログラムを開催しました。子どもたちはエネルギーが高いことが多く、日常で感じている様々な気持ちをプログラムで表現してくれているように思います。年に4回という開催回数ではありますが、子どもたちは亡くなった人について教えてくれたり、遊びを自由に選んだり、子どもたちがプログラムの場に慣れてきていることも感じます。

岩手県沿岸部では、多くの地域が震災により被害を受け、「住み慣れた町を失う」という喪失を体験しています。また、復興の過程で「住み慣れた町に入れぬ」「住み慣れた町が土で埋められる」という体験をしています。それは、「亡くなった大切な人や思い出とつながり直す場を失う」とも言えます。内陸部に転居された方にとってもその喪失感は大いと思われる。

グリーフプログラムは、子どもたちが大切な人や思い出と「つながり直し」をする場であると感じます。子どもたちはプログラムで亡くなった人や、昔住んでいた場所の思い出を言葉や遊びで表現することが多くあります。そのような表現を大切に、子どもたちに寄り添いながら、いのちに寄り添う場をこれからもつくっていかれたらと思います。

# COLUM



## 相澤 治

子どもグリーフサポートステーション  
事務局長  
プログラムディレクター

自分の家族や親戚でもない限り、なかなか子どもの成長を見守り続ける機会は少ないと思いますし、子ども関係のお仕事に関わる方でも、卒園や卒業するまでの間など期間が限られている方がほとんどではないと思います。

大切な人との死別を経験した子どもたちへのグリーフサポートに仕事として関わらせていただくようになり、約4年が経ちます。その間、子どもたちはそれぞれ成長しました。初めて出会った頃、まだ赤ちゃんだった子がお話したり走り回るようになりました。それぞれ進学や就職をした子もいます。初めてプログラムに参加した時、強ばった表情をしていた子が、回を重ねる毎に笑顔を見せ、楽しそうにお話をするようになっていく様子を見ることもできました。とても贅沢でありがたいことです。

お陰さまで、東北各地でグリーフプログラムを開催させていただいています。札幌や東京、福岡などでのグリーフプログラムにも関わら

せていただくことが出来ました。そこでは、家族でも親戚でもご近所でもないたくさんの方が関心を持ち、子どもたちにあたたかい眼差しを向けています。子どもたちも、その出会いとあたたかな眼差しのなかで、それぞれのペースで遊んだり話をしたりして、成長しています。ここでの子どもたちとの関わりに期限はありません。子どもたちは、望む限りいつでも来ることが出来ます。スタッフやファシリテーターとして子どもたちに関わる人は、その成長を見守り続けることが出来ます。グリーフプログラムの様子を、「まるで遠い親戚の集まりのような感じですね。」と表現したファシリテーターの方もいました。

グリーフを抱えた子どもとその家族には、時としてサポートが必要です。悲しみや苦しみを変わって引き受けることは出来ませんが、嬉しい気持ちや楽しい気持ちも含め、子どもひとりひとりの声に耳を傾けたり、表現の手助けをすることは出来ます。そういった時間を共に過ごす多くの大人がいてくれることが、子どもたちの力になります。5月と6月にはそれぞれ福島市、仙台市でファシリテーター養成講座を開講します。(下記参照)子どもたちの成長を共に見守り、寄り添ってくれる仲間作りをしたいと考えています。たくさんの方にご参加いただき、大切な人との死別を経験した子どもたちのグリーフサポートへの理解と輪が広がることを願います。

## お知らせ

参加者募集中!

### 福島ファシリテーター養成講座

- ◆日程：2015年5月30日(土)31日(日)※2日間の受講が必須です
- ◆時間：10:00~16:30(両日とも) ◆会場：福島テルサ(福島市上町4-25)
- ◆定員：20名 ◆参加費：一般4,000円、学生3,000円(テキスト代含)  
※学生の方は、プログラムに参加することで参加費を返還する学生ファシリテーター支援制度があります
- ◆対象：子どもグリーフサポートステーションが月に1回福島市で開催しているグリーフプログラムに年2回以上ご参加いただける18歳以上の男女。経験、資格、学部学科等は問いません。
- ◆参加方法：電話・メール・申込フォームのいずれかからお申込ください。その際、次の項目をお知らせください。①お名前(ふりがな)  
②連絡先(メール・電話)③性別④年齢⑤職業・所属  
電話：022-796-2710 メール：info@cgss.jp  
申込フォーム：<http://kokucheese.com/event/index/284591/>  
※申込締切：5月26日(申込状況により早めに締め切ることがあります)
- ◆主催：NPO法人子どもグリーフサポートステーション

### 仙台ファシリテーター養成講座

- ◆日程：2015年6月13日(土)14日(日)※2日間の受講が必須です
- ◆時間：10:00~16:30(両日とも) ◆会場：仙台レインボーハウス
- ◆定員：30名(学生20名、一般10名)※先着順
- ◆参加費：一般4,000円、学生3,000円(テキスト代含)  
※学生の方は、プログラムに参加することで参加費を返還する学生ファシリテーター支援制度があります
- ◆対象：子どもグリーフサポートステーションおよびあしなが育英会が月に2回開催しているグリーフプログラムに年2回~月1回でご参加いただける18歳以上の男女。経験、資格、学部学科等は問いません。
- ◆参加方法：電話・メールにてお申込ください。その際、次の項目をお知らせください。①お名前(ふりがな)②連絡先(メール・電話)  
③性別④年齢⑤職業・所属  
電話：022-796-2710 メール：info@cgss.jp  
申込フォーム：<http://kokucheese.com/event/index/293563/>  
※申込締切：6月6日(申込状況により早めに締め切ることがあります)
- ◆主催：NPO法人子どもグリーフサポートステーション  
あしなが育英会東北事務所

## プログラム

### 予定

5月 | 2日(土) 仙台  
3日(日) 陸前高田  
8日(金) 釜石(中・高校生)  
9日(土) 釜石  
16日(土) 仙台  
23日(土) 福島

6月 | 6日(土) 仙台、陸前高田  
13日(土) 宮古  
20日(土) 仙台  
27日(土) 陸前高田

大切な人を亡くした子どもと保護者の方はグリーフプログラムにご参加いただけます。子どもグリーフサポートステーションまでお問合せください。詳細な資料を用意しています。

# ZOOM! 仙台レインボーハウスってどんなところ？

仙台的グリーフプログラム「ワンデイプログラム」は、子どもグリーフサポートステーションとあしなが育英会が共同開催しています。2014年12月までは、仙台駅近くの子どもグリーフサポートステーション事務所でプログラムを開催していましたが、あしなが育英会が子どもたちのために建設した「仙台レインボーハウス」が完成したことを機に、プログラムの会場をレインボーハウスに移して開催することになりました。建物内にはあそびの部屋や火山の部屋、大きなホールなどがあり、子どもたちがそれぞれのペースで、様々な過ごし方ができるようになっています。



火山の部屋

安全に暴れることのできる部屋です。サンドバックやグローブ、クッションなどがあり、体を動かして気持ちを発散するのに適しています。



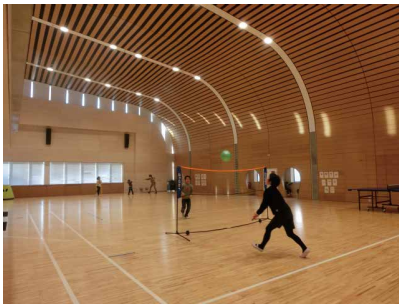
おしゃべりの部屋

輪になってお話をすることができる部屋です。ぬいぐるみがたくさんあるので、安心感をもって過ごすことができます。「はじまりのわ」「おはなしのじかん」「おわりのわ」はこの部屋で行っています。



あそびの部屋

おもちゃがたくさんある部屋です。好きなおもちゃを選んで、好きなように遊ぶことができます。おもちゃを使った遊びや、お絵描きなどは、この部屋で行われています。



多目的ホール

広い体育館のような場所です。走り回ったり、バドミントン・卓球などの球技をすることもできます。ここでは体を大きく動かして遊ぶことができます。



食堂

机と椅子がたくさんあります。プログラムでは、おやつ時間はここに集まり、みんなでおやつを食べます。遊び疲れたり、ゆっくり過ごしたい子が「ちょっと休憩」する場所にもなっています。



保護者の部屋

子どもたちが過ごす場所とは別の階にあり、保護者がゆっくり過ごすことができるスペースです。部屋の外にもソファがあり、くつろぎながらおしゃべりをしたり、一人の時間を過ごしたりすることもできます。

※ 仙台レインボーハウスの見学については、あしなが育英会東北事務所（022-299-2418）までお問合せください。

あしなが育英会のレインボーハウスは仙台的のほか、陸前高田、石巻、神戸、日野（東京）にもあります。

## ご寄付のお願い

子どもグリーフサポートステーションは、大切な人を亡くした子どもたちのためのサポートとして、様々な活動を行っています。その活動には、皆様からのご支援が必要です。いただいたご寄付は、大切な人を亡くした子どもたちのための活動に使われます。ぜひご支援ください。

### ご寄付の方法

振込払いにてお願いいたします。

七十七銀行 南町通支店  
普通 5493790  
NPO 法人 子どもグリーフサポートステーション  
理事 西田 正弘

※寄付をされた方のお名前・ご住所・ご連絡先を、電話やメール等でお知らせいただけますようお願いいたします。

※領収書の送付を希望される方は、お申し付けください。

### \*物品のご寄付について\*

おもちゃ・文房具などの物品のご寄付を希望される際は、まずは子どもグリーフサポートステーションまでお問合せください。場合によっては、お受けできない場合がございます。新品または新品同様のもので、清潔・安全であるものが対象です。

## NPO 法人子どもグリーフサポートステーション

TEL 022-796-2710

FAX 022-774-1612

MAIL [info@cgss.jp](mailto:info@cgss.jp)

ADDRESS 〒980-0022  
宮城県仙台市青葉区五橋 2-1-15  
仙台レインボーハウス内

Twitter @CGSSJ

WEB <http://www.cgss.jp/>

\*Facebook もあります！